

「この身になりますように！！」
～あなたは覚えていますか？～

ルカ1：28～38

神さまが人を創った理由は、人々が喜んで、その喜びが神さまに感謝してかえるためです。そしてその喜びが神さまにかえると、私たちの喜んでる姿を見てまわりが幸せになります。幸せになった私たちのまわりはまた、その喜びをもって神さまに感謝します。だから全ては神さまに栄光がかえるためです。私たちがしなければならないことは「いつも喜んでいる」ことです。あなたは楽しんでますか？私たちが笑っているとまわりの人にも飛び火して周りの人たちも楽しくなります。私たちクリスチャンの使命は「笑っている・喜んでいる」ことです。私たちが喜びことを忘れてはやってる意味がありません。「私はイエスさまを信じて喜びでいっぱいです。イエスさまと一緒にいて幸せです。」と挨拶をしている顔が悲しい表情では意味がありません。私たちはまず喜んでることを忘れないようにしなければいけません。今日のメッセージは『この身になりますように！！』～あなたは覚えていますか？～と言うことです。日体大のお家芸に「集団行動」があります。これを行ううえで一番大事なことは「誰1人勝手なことをしない」と言うことです。自分たちで「こうだ！」と決めたことは全員で一体となって実行することです。これは日体大のお家芸で最初に始めた思いがあるはず。その思いを引き継いでいって伝統を汚してはいけないと後の人が頑張って伝統として残っていくのです。一方で、日本人は本人の志や使命に関係なく人真似が好きです。「あの人はこれで成功したんだから自分もこうすればうまくいく」と、だまされていませんか？人はそれぞれ違うので同じことをやっても無意味です。私たちはどうでしょうか？(Ⅱコリ4:8～10)パウロは目の前のさまざまな状況にのまれたいと言っています。その悪い状況のまま終わることはありません。私たちがおかれている環境は今どうですか？確かに八方ふさがりで途方に暮れることがあるかもしれませんが。神さまはその状況からの脱出の道を用意してくれて救ってくれます。では、脱出できなくなる理由は何でしょう。それは、なぜそれをしなければならないのか忘れるからです。脱出しなければいけない理由を忘れるからです。今私たちは乗り越えることをしなくなりました。昔の日本人は今持っているものを更に良くしようと改良を重ね見本にしていたものを追い越して素晴らしいものを作っていました。今の状況を良い方向に改良したいと脱出しようとする人たちはそれを悪いようには用いません。しかし多くの人が楽をしたいがために追い越す・脱出するのではなく追従するだけなのです。聖書の中にプリスカとアクラと言う人が出てきます。パウロが同労者と呼ぶ数少ない人たちです。パウロが皮なめし(天幕作り)をしていた時に一緒にいたのがこの夫婦です。後にこの夫婦がアポロを導きます。アポロはバプテスマのヨハネの教えしか知りませんでした。ただの信徒さんだった2人がキリストの恵みを教えたのがこの夫婦だったのです。しかし家を開放しそこは初代教会・家の教会と言われるようになりました。「コイノニア(=イエスキリストという共有の宝を持っている関わり)」と言われる場所になりました。今私たちが集っている場所です。だからこの夫婦は異邦人の教会の原点です。だからパウロはローマ人へ手紙を書く時にわざわざ「プリスカとアクラによろしく伝えてください」(ローマ16:3)と書いています。私たちにってはパウロよりこの夫婦の方が影響力があります。異邦人への伝道のために自分たちの家を開放し家の中でやさしく大事にもてなしパウロが裁判にかけられ訴えられそうになった時に助けたのもこの夫婦です。激しい迫害の中でイエスキリストを信じて全てを捧げてついでいった素晴らしい夫婦です。彼らがとった行動はただ、自分がイエスさまを信じて「こう生きよう」と決めたこと・志を貫いただけです。だから、その志を貫く中でどんな状況におもせられ屈することなくただただ神さまについて行っただけです。私たちは今したいこと・「こうだ」と決めたことを実現できているでしょうか？「私はこうなるんだ」「こういう人になりたい」もしくは祈って「あなたはこうなる」と言われたことを覚えていますか？決めたことを実現しようとした時に否定・非難・迫害などさまざまな問題が起こってきます。お金が無いなど現実問題にあたることもあります。自分の領域を狭める色々な要素がありますが、それでも「やらない・辞める」決断したのは私たちです。人には「自分は何のために生きるのか」考える能力があります。だからどんなに自分を偽ってもこれを無視して生きることは出来ません。だからどこかに自分の居場所を求めます。それは仕事場ですか？しかしそこで空回りすればするほどおかしくなります。そこに本当に自分の生きる道がないからです。私たちはその居場所を間違えてしまいます。仕事・子育て・ボランティア…やることは色々ありますがそれは本当に自分のやりたいこと・使命・志を紛らわしているのかもしれない。自分たちの使命をちゃんと掴んでいれば声や見てくれに関係なくその人は魅力的です。大事なのは外側ではなくその人が内側に持っている素晴らしい能力がいかんにか発揮されているかその人の魅力が変えられるのです。外見・オーラが荒んでいる人は内側も荒れているのです。だから私たちはいかに内側を神さまの目に美しく保つかが大事なのです。私たちは外側をいくら綺麗に繕ってもいけません。内側を輝かせるために私たちははじめの思いに立たなければなりません。私たちははじめの思いに立っているでしょうか？忘れていませんか？自分がどうやって生きてどのように終わるのかをしっかりと描いてください。だからこのようにならないために**①初めの愛をしり、忘れてはいけない！**です。自分が愛されたことを知らなければいけません。愛されたことのない人は誰かのために愛をあらわすことはできません。絶望の中にいる人が希望を与えることは出来ません。私たちの最初の志を神さまはあきらめていません。「自分はこれをやり遂げるんだ」と言わなければいけません。弱いものかもしれない・弱い状況にあるかもしれない…けど自分に任されている神さまの願いは大きいのです。だから「自分は〇〇だから出来ない」など言っている場合ではありません。最初の思いを忘れないように歩みましょう。**②使命を忘れてはいけない！**です。イエスキリストはその使命を持って十字架に向かって行きました。決して忘れませんでした。だからそれを成し遂げることが出来ました。私たちも使命を忘れては何も出来ません。「自分は何のために生きるのか」。まず**①愛されたことを忘れない**。そして**②自分はこういう思いで神さまに使命を任されている・自分はこれを達成するんだ**、という思いを忘れないでください。そして最後に**③志と夢を忘れてはいけない！**です。今夢を描いていますか？諦めた夢はないですか？自分が志と夢を持って「こう生きるんだ」と決めたのに「現実とは違うよね」と諦めたことはないですか？自分の志なので諦めてはいけません。それを諦めると言うことは自分の中心を諦めたこととなります。私たちは環境が悪くなるとすぐに諦めてしまいます。やると決めたことは這いつくばってでもやるのです。それを1人でやれとイエスキリストは言っていません。私たちは「ホザナ(=主よ救ってください)」と賛美します。イエスキリストは「私はインマヌエル(=主は共にいる)」と言う」と応えてくださいます。イエスさまはいつも私たちと共にいます。1人ではありません。私たちの行く方向を示し、私たちが倒れないように背負ってくださっています。私たちは今おかれている状況に悲しんだり絶望したりするかもしれませんが。しかし神さまはそれを喜びに変え、そして必ず「やって良かった」と言える時を見せてくれるのです。私たちが種を蒔いてもすぐには芽が出ないかもしれませんが。しかし諦めてはいけません。誰かに御言葉を語ってもその時すぐにその人は変わらないかもしれませんが。しかし変わらないまま終わることはありません。私たちが語り続け行動し続けるなら、相手も必ず変わるのです。だから諦めてはいけません。言葉は私たちの先を歩みます。心で信じていても諦めを口にした瞬間に描いていたものはなくなってしまいます。だから自分たちの口をしっかりと神さまの口(言葉)にしていかなくてはなりません。自分のまわりにいる人はみんな幸せですか？どんな人でも私たちがその人に神さまの愛を伝えることを止めてしまえば他に誰がするのでしょうか。私たちしかいないのです。だからこそ私たちがまず頑なな人になってはいけません。私たちは頑なでしようか？それとも従う人でしようか？イエスキリストは十字架の上で私たちの夢を見たのです。自分が十字架にかかることで私たちが幸せに暮らせることを夢見ていたのでイエスさまはそこから逃げずに頑張ったのです。イエスさまほどの痛みを私たちは知りません。しかしイエスさまを信じていけばその痛みも苦しみも分かっています。私たちはその自分のために負われた痛みを今度は自分が負って自分の隣人のために命をかけて自分が出来ることをしていきましょう。迷した時は2度と戻ってきません。諦めを捨てて「自分がする」と決めたことを実行していきましょう。そうすれば多くの異邦人を救いに導いたプリスカとアクラようになります。もう一度、自分の使命・志・夢を思い起こしていきましょう。

(要約者：行司 佳世)